



発行所
八尾市消防団
発行責任者
八尾市消防団長
向井正雄
八尾市高美町5-3-4
TEL(072)992-0119
FAX(072)992-7722
刊行物番号H30-223



消防出初式

平成31年1月14日(月・祝)、大阪府中部広域防災拠点において、新春恒例の八尾市消防出初式が挙行されました。

例年は、寒風吹きすさぶ中で、開催や雪の舞う年もありましたが、今年は、晴天で風もなく、素晴らしい陽気となりました。

式典は、大阪市消防局航空隊のヘリコプターの祝賀飛行で幕開けし、国旗掲揚、消防殉職者の霊に対する黙とう、徒歩部隊及び自動車部隊の分列行進と続き、田中市長の式辞と市議会議長の祝辞が行われ、藤原消防長の答辞で締めくくられました。

その後、消防団の操法披露として第62回大阪府消防操法大会ポンプ車操法の部において優勝し、初の全国大会出場を果たした南西方面隊の選手たちが、その技術を発揮し、見事、市民の皆様から盛大な喝采を浴びました。

この式典を機に、八尾市の安心・安全を守るべく、日々の訓練・地域の防災活動に気を引き締めて取り組んでいく覚悟を改めてもちました。

◆(山本分団 福田 大祐)

自然災害への心構え



団長 向井 正雄

団員の皆様には、平素から昼夜を問わず地域の消防防災活動にご尽力していただき、心から感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、北海道胆振東部地震や平成30年7月豪雨など自然災害により全国各地に甚大な被害をもたらす一年となり自然災害の恐ろしさを改めて痛感いたしました。

大阪府内においては、6月に観測史上初となる震度6弱を記録した大阪府北部地震が発生し、大阪府北部地域で大きな被害がありました。

また、8月から9月にかけて、立て続けに発生した台風による影響を受けた年でもありました。

八尾市内においては、大阪府北部地震による大きな被害はなかったものの、これまでになく猛威を振るった台風第21号の被害は、各所で数多く発生し、全分団が出席するという事態となりました。

各分団の皆様、ほんとうにご苦勞様でした。

近年、異常気象による、災害の様相の変化と南海トラフ地震等の発生が危惧されています。

我々消防団は、さらに身を引き締め、災害に立ち向かう高い意識と決意をもって消防団活動に邁進していくことが必要となります。

昨年9月に開催されました第62回大阪府消防大会において、八尾市消防団は、ポンプ車操法の部で見事に初優勝を遂げ、全国大会への出場を果たし、消防団の歴史に輝かしい1ページを刻むことができました。

長期間にわたり訓練に励んでいたいただいた南西方面隊の皆様、お疲れ様でした。

平成30年4月に発足いたしました女性分団は、様々な行事、訓練等に意欲的に参加していただき女性分団としての活動の方向性を明確に示すことができました。

おわりに、八尾市消防団は、今後も災害に強いまちづくりを目指し、市民の安全・安心のため地域との連携強化に取り組む所存でございます。団員の皆様には、引き続き地域防災の要としてご尽力いただきますようお願い申し上げます。



大阪府消防表彰受章

平成31年3月16日(土)、平成30年度大阪府消防表彰式が行われ、本市からも大阪府知事表彰をはじめとして、多くの団員が栄えある表彰を受章しました。

【大阪府知事表彰】
○消防勤続功労章
山本分団 副分団長 石井 一夫
○消防功労章
大正分団 分団長 乾 和仁
高安分団 副分団長 近藤日出男
山本分団 副分団長 堤下 富彦
志紀分団 副分団長 山科雅一

【大阪府消防協会会長表彰】
○功績章
団本部 副団長 川上 剛弘
○永年勤続章
志紀分団 部 長 中村 博志
○勤続章
龍華分団 副分団長 廣岡 勝
山本分団 副分団長 竹下 健一
西郡分団 副分団長 吉田 美紀

志紀分団 副分団長 西口 泰弘
曙川分団 副分団長 織田 和彦
○勤功章
高安分団 分団長 山中 篤
(代表受賞)

山本分団 副分団長 西田 昌彦
志紀分団 部 長 中村 博志
志紀分団 部 長 山科 輝明
山本分団 部 長 貝堀 全利
久宝寺分団 部 長 村上 勇
山本分団 部 長 藤井 保士
○精勤章
大正分団 班 長 天道 涉
南高安分団 班 長 北本 晃史
南高安分団 班 長 浅井 孝一
龍華分団 班 長 山崎 聡
山本分団 班 長 岸田 充広
大正分団 班 長 今仲 幹夫
南高安分団 班 長 坂本 裕規
南高安分団 班 長 坂上 大介
南高安分団 班 長 馬谷 泰樹
南高安分団 班 長 結城 徳亮
志紀分団 班 長 山口 通伸
志紀分団 班 長 北山 克
志紀分団 班 員 松本 直也



自然災害を経験して

平成30年は、6月の大阪府北部地震から始まり、西日本豪雨、台風21号と多くの自然災害が大阪を襲いました。

消防団員の中には、自宅や勤務先が被害に遭ったにもかかわらず、地域の安全を守るため、昼夜を問わず屯所で警戒配備し出場に備えていた団員も数多くおられました。

台風21号時には、我々大正分団も、屯所で警戒配備に備えていました。警戒配備中に地域の多くの方々から様々な要望があり、その中には「電線に鉄板が引つ掛かっている」や「看板が飛びそうで危



ない」などといった事案により出場しました。強風の中での出場途上では、瓦やスレート等様々なものが飛散しており、消防車の運転もまともにはできる状況ではありませんでした。

そのような状況下において、現場へ到着するものの我々には手を出せない事案が多く、ただ茫然と見守っていた場面もありました。私たち消防団として限られた活動はできるものの、自然の猛威の前での無力さを感じた日となりました。

しかし、これから起こりうる多くの災害に対して、備えや予防対策を消防団からしっかりと発信すること、地域の方々に寄り添い、心の拠り所となる消防団を目指し、日々訓練や地域に密着した活動に励みたいと思います。

◆(大正分団 佐々木 一智)

秋季火災予防運動

この秋季火災予防運動は、11月9日から一週間全国各地で実施されており、空気が乾燥し火災が発生しやすい時季を迎えるにあたり、火災予防意識の一層の普及を図り、火災の発生を防止し高齢者等を中心とする死者の発生を減少させるなどを目的としているものです。

この「秋の全国火災予防運動」の初日でもある11月9日は、「119番の日」で、国民の消防全般に対する正しい理解と認識を深め、住民の防災意識の高揚を図ることを目的として設けられた防火防災の記念日です。

久宝寺分団は、この火災予防運動期間中の11月11日と13日の二日間、女性分団員も参加し、久宝寺地区の防火啓発のため、夜間巡視パトロールを実施しました。

パトロール終了後、久宝寺分団の屯所にも立ち寄り、意見交換等を行い、交流を深めました。

僕達には慣れ親しんでいる町のため、あまり意識はしていませんでしたが、女性分団の方が、久宝寺の寺内町をパトロールし

ていて、「道が狭いうえに、木造の家が多く、火事になった時は大変だと思った。」との感想を聞き、より一層、この町で火災を未然に防げるように、パトロールや防火広報を行うことで市民ひとり一人の防火意識を高揚させようと思いました。

最後に一言、
「火の用心」

マッチ一本 火事の元！
火災には気を付けましょう。

◆(久宝寺分団 土谷 研太)



平成30年度 幹部課程

毎年幹部課程は、3つの課程に分かれ実施されています。

①「初級指導課程」消防団員の「幹部教育」として消防団幹部に對して必要な教育訓練を行い、幹部としての指導的立場を自覚し、消防団の運営に必要な規律、消防団に期待される役割等を研修する。

②「現場指揮課程」現場指揮者として、災害時の的確な現場指揮、安全管理の知識及び技術を習得すること並びに自主防災組織等に防災指導が行えるよう研修する。

③「分団指揮課程」指揮幹部としての自覚の醸成及び消防団組織の管理運営と活性化に係る広い見識の向上を図るとともに災害時の消防団に期待される役割及び活動の在り方等を研修する。これら幹部課程に平成30年度参加したのは次の方々です。

①「初級指導課程」

高安分団 副分団長 清水大輔
久宝寺分団 班 長 藤原道洋
龍華分団 班 長 兼山泰治
大正分団 班 長 今仲幹夫
曙川分団 班 長 杉田昌己

②「現場指揮課程」

久宝寺分団 分団長 吉川明憲
久宝寺分団 副分団長 赤岩孝浩
高安分団 副分団長 野口裕光

③「分団指揮課程」

龍華分団 副分団長 廣岡 勝
高安分団 副分団長 清水大輔

今回、現場指揮課程を受講した高安分団 中部分隊の副分団長野口裕光さんに受講した感想を聞いてみました。



『今回、訓練に参加させていただいたのは、幹部科現場指揮課程です。』

緊急時における要救助者の救

助方法及び災害現場全体を把握した上での指揮者としての活動要領を学びました。

救助方法では、てこを利用した方法やジャッキを利用した方法があり、実際に要救助者を発見した時に落ち着いて、状況によりどの様な救出方法が望ましいのかを学びました。マンション等における高層階の火災を想定した放水訓練では、非常階段でのホース延長や、高低差により各階の放水圧力が高まることにより、放水隊員の活動が困難になることなどを経験し得たことは、高層火災では転進等の際に、安全管理に十分留意しなければならぬと感じました。

さらに、活動中における危険予知訓練は貴重な財産になりました。

今後は、この経験と知識を所属分団や地域の自主防災組織等へ伝えることにより還元していきたいと思っています。』

本当に貴重な感想をいただきました。このような、素晴らしい経験を各分団で指導していただき、知識を共有していただけたことを期待しております。

最後に、我々団員は有事の際に、日々の訓練成果を遺憾なく発揮

できるような、これから、講習や訓練に熱意と使命感をもって参加すること、八尾市消防団として、また一個人としても成長できるものと思ひ活動に励みます。

◆(高安分団 増田 卓司)

歳末警戒



平成30年12月29日(土)30日(日)の2日間八尾市内全分団で、歳末特別警戒を行いました。

西郡分団ではポンプ車と徒歩で管轄区域のパトロールを実施し歳末の防火呼びかけました。また、消防本部をはじめ、市役所、警察、大阪府議、地元市会議員など各種団体代表が激励に來られました。

消防団長の激励巡視での訓示は、「近年多発する地震や風水害に對して、より一層尽力していただきたい。」との、お言葉を頂き分団員全員が身を引き締めるとともに火災のない年の瀬を願ひ、特別警戒を行いました。

◆(西郡分団 安田 武仁)

若なる会親睦旅行

平成31年2月2日(土)、3日(日)、八尾市消防団若なる会は、幹部の親睦を深め、より一層各分団間の連携を図ることを目的に、毎年恒例の親睦旅行に今年は、福岡県博多方面を訪れました。

福岡では、まず、太宰府天満宮を参拝しました。

太宰府天満宮は、菅原道真公の御墓所の上にご社殿を造営し、その御神霊を永久にお祀りしている神社で、「学問・至誠・厄除けの神様」として、広く世のご崇敬を集めていることもあり、多くの方が参拝に訪れていました。

その中でも、学生が数多く参拝されているのを見かけ、若い世代が未来に向かい、ひたむきに頑張ろうとする姿を見ると、改めて消防団員として初心に戻り、地域の

ため、またこれから起こるであろう災害に對し、どのように分団として立ち向かっていくべきかなど考えさせられました。

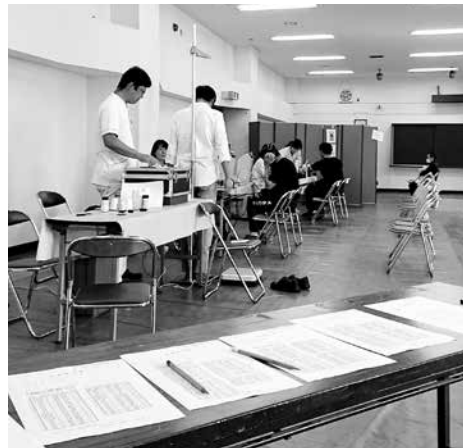
糸島のカキ小屋でのカキや、もつ鍋、2日目のお昼には佐賀県呼子のイカなど、産地ならではの食事を美味しく頂きながら、他の分団長とこれからの消防団としてあるべき姿や、各分団の悩みなど、意見や情報交換をしました。

今回の若なる会親睦旅行において、より一層、各分団の親睦を深め、八尾市消防団が一致団結し、八尾市の安心・安全ため、消防団活動にたずさわることが出来ると感じることができました。

◆(八尾分団 鈴木 卓也)



消防団員定期健康診断



平成30年11月10日(土)、消防本部において消防団員定期健康診断が行われました。

この健康診断は消防団員を対象に毎年行われるもので、血液検査や心電図、尿検査など様々な検査が実施されます。

今年は126名の団員が受診しました。

年齢を重ねると誰もが自分の身体に不安が出てくるものです。体を動かすことを基本とする消防団員は、常に健康管理には十分留意しなければなりません。

検査の結果で異常が疑われる方は早急に病院で診察してもらうようにしましょう。

私自身、健康を考えて、食事の

最初に食物繊維のサラダを食べることを心掛けています。

その理由は、血糖値の上昇を抑える効果があり、またダイエツトにも大変有効であるためです。

◆(南高安分団 西尾 克徳)

一口メモ(中性脂肪)

中性脂肪は、エネルギー源であるブドウ糖が不足した場合、それを補うためのエネルギー源です。

体内に取り込んだエネルギーが余った場合、肝臓で中性脂肪が合成され、皮下脂肪として蓄えられます。

このように中性脂肪は人間の体になくしてはならないのですが、肝臓で増え過ぎれば脂肪肝に、皮下組織で増え過ぎれば肥満につながります。

中性脂肪の量を調べることは、様々な病気の温床を断つことにつながるのです。

★食事・日常生活の改善点

- ① 過食をやめる
- ② バランス良く栄養を摂る
- ③ 甘いものを控える
- ④ 魚介類と植物性蛋白を増やす
- ⑤ 油脂は固形の油を減らし液状の油に
- ⑥ アルコールを減らし、喫煙をやめる
- ⑦ 植物繊維や抗酸化物質を摂る
- ⑧ 適度な運動



曙川東小学校区 まちづくり協議会防災訓練

平成30年10月28日(日)、曙川東小学校区で晴天の下、防災訓練が開催されました。

まず、最初に消防署員から小学校に備え付けてある小型ポンプの取り扱い説明があり、その後、訓練参加者による放水訓練が行われました。

この訓練は、地震で火災が発生した場合、すぐに消防隊は到着できないことが考えられるため、自主防災組織が初期の火災の段階で消火するのに重要な取り組みです。

それぞれ4班に別れ、①「火事ですか? 救急ですか?」と馴染みのある実践に即した「通報訓練」②初期消火の基本である「消火器の取り扱い方法」また、チームプレイが必要なバケツリレー訓練③いざというときのために応急手当の知識を身に付け、救急車が到着するまでにできるAEDを使つての「救命処置法」④毛布、物干し竿など、身近なものを使つての「応急担架の作り方と搬送法」、煙の恐ろしさを知るため、テント内で無害な煙を使つた「煙体験と避難方法」、

老いも若きも真剣に、時には楽しみながら防災に取り組んでいただきました。

また、参加者には、炊き出し班で用意された炊きたてご飯と参加賞が配られ、お徳感満載でした。

これから誘いあつてどんどん参加されることにより地域防災力の向上につながるよう切に願います。

団結ある町内活動の一助になるよう、我々消防団も積極的に協力していこうと思う一日でありました。

◆(曙川分団 大槻 秀樹)



火災原因について (トラッキング現象)

私たち消防団員は、消防職員の方と共に、消防本部からの出動指令を受け様々な火災現場へ出場します。

私はまだ、入団して日も浅く災害現場の経験は多くありませんが、先輩方から多くの体験談を聞き、災害現場での活動や安全管理について日々勉強しております。

そんな私ですが、友人の身に起きたヒヤリハットの体験談から、その原因について考え、これからの火災予防に繋がればと、今回「電気火災」について、解説したいと思います。

「電気火災」といっても、いくつかの原因があり、その中でも代表的なものとして、コンセントから発火するトラッキング現象というものがあります。

これは、コンセントとプラグの隙間にホコリが溜り、そのホコリが空気中の湿気を吸収することで漏電し、発熱・発火する現象のことを言います。

発火の程度や状況によってコンセントの周りが焦げ付く状態になり火災を引き起こす危険性があります。

冷蔵庫など大型家電製品の裏側で普段掃除しない場所もホコリが溜りやすくなるため、トラッキング現象が発生しやすくなります。

私の友人も日頃から火の取扱いなどには細心の注意を払っていましたが、コンセントからの発火が起きました。消防車が駆け付けるといふ事態になりましたが、幸い大事には至りませんでした。

このトラッキング現象は、時期を問わず発生し、100%予防することは難しいですが、日頃から火災予防の意識を持ちコンセント周りの掃除を怠らなければ、危険を未然に防ぐことができます。

消防団員として、消火のみならず火災予防の面でも市民のためになれたらと思います、今後も消防団活動に励みます。

皆さん、いま一度コンセント周りを点検して下さい。

◆(龍華分団 西川 尊之)

ほこりが溜まっていたら危険!



YAO防災フェスタ

平成30年11月11日(日)、大阪府中部広域防災拠点において「YAO自主防災フェスタ」が開催され、女性分団として可搬ポンプ訓練を披露しました。

当日までの訓練回数も限られており、不安な気持ちもありましたが、八尾の女性には頼もしいと感じてもらい、私たちの一生懸命な姿が誰かの活力になる事を願い、女性分団員の皆が心を合わせ奮励努力して訓練を重ねました。

そして、いよいよ訓練披露当日、緊張は最高潮に達していました。先輩団員の気合の入った「操作始め」の合図で、私たちは全力で操法を開始しました。



私は2番員を担当しました。

私の役割は、まずホースを延長し、先を行く1番員を追いかけホースを結合し、1番員の「放水始め」の伝達を受け、ポンプを操作する3、4番員の元へ戻り「放水始め」を伝達します。

そして再び火点側へ走り1番員の放水補助をします。

このように、私の動作が架け橋となり操法が繋がっていく様子が、皆の心を結びつけるようで、とてもやりがいを感じました。

たった数分の操法でしたが、見学者の温かい拍手が心に響き、やりきった達成感で胸が熱くなりました。

年が明け、学生時代の陸上部

の仲間との新年会の日、「昨年一番頑張ったことは？」との話題になったとき、「4月から消防団に入団して、可搬ポンプ訓練を披露したこと」と凛として答えました。

私たちは、今回の訓練をとおして、「有事の際には私たちでも放水することができるよう！」と自信を得ることができました。

そして、訓練を重ねるごとに女性分団の団結が深まっていくのを感じました。

更にパワーアップした女性分団で、今後の消防団活動に励んでいきたいと思っています。

◆(女性分団 武下 真弓)

厚生事業(ボウリング大会)

平成30年11月17日(土)、八尾ボウルアローにおいて、八尾市消防団の厚生事業の一環として、第26回消防団員ボウリング大会が開催されました。

当日は、向井団長をはじめ女性分団員を含めた11分団総勢152名の団員が参加しました。

まず、大会開始に先立ち、向井団長の挨拶に続き、西野副団長の始球式で幕を開けました。

ゲーム開始の合図と共に熱の

こもった激しいバトルが繰り広げられました。

今回のボウリング大会は平成最後のボウリング大会ということで、会場は終始大盛況でした。

また、志紀分団のレーンでは、「大阪府消防大会ポンプ車操法の部」優勝と「全国消防操法大会」出場の興奮が、いまだ冷めやらず、異常な程に大変な盛り上がりでした。

次回のボウリング大会も各分団や上層部の方々との交流や絆(きずな)が一層深まることを、心より楽しみにしています。

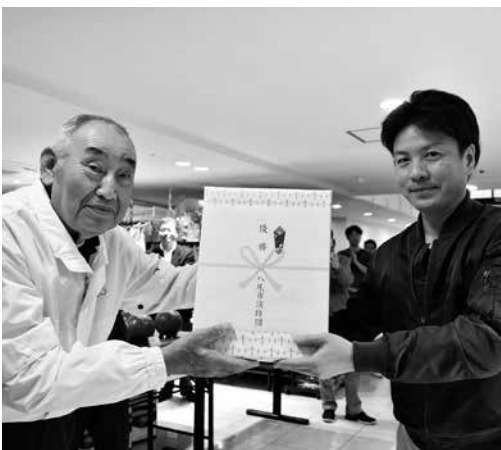
〈個人戦〉

優勝 高安分団 増田団員

〈分団対抗〉

優勝 高安分団

◆(志紀分団 平池 稔)



第26回全国消防操法大会



平成30年10月19日(金)、富山県広域消防防災センターで第26回全国消防操法大会が行われました。

全国から小型ポンプ操法の代表25隊、ポンプ車操法の代表23隊の合計48隊が一同に集まり、八尾市消防団は大阪府代表としてポンプ車操法の部に出場しました。うつすらと霞む空、早朝からほのかに汗ばむ午前9時、前大会の優勝隊に続いて47都道府県代表出場選手団が入場すると、大きな声援と拍手が広がりました。

開会式の後、すぐに最初の操法が始まり、私達の応援席からは操法の様子がよく見えます。

1隊、2隊と操法が終了していく中、掲示板に時折目を向け、終了した隊の順位とタイムを確認して感じた事は、各隊員の士気の高さとチームワーク、そして正確な身のこなしや安全な操法ができていたか、たとえ操法のタイムが速くても様々な部分で評価が下がっては優勝できないという事を改めて実感しました。

午後の部が始まってから徐々に雨が降り始め、この影響で選手達の足元が滑りやすくなり、ホースを持ち運ぶ選手が転倒しそうになっていました。

午後からの出場となる八尾市消防団に試練を与えるかのような豪雨となり、観客もまばらになる中での操法でした。結果は17位とはいえ、決して他隊に劣ることのない素晴らしい操法だったと思います。

我々八尾市消防団が全国への第一歩を踏み出した選手たちの雄姿は輝かしく、今でも脳裏に焼き付いています。

●各選手の感想 指揮者 弓削分隊 井形団員

当日は晴天で始まりましたが自分達の操法を披露する前に豪雨となり、経験のした事無い雨中での操法となりました。応援して下さいました団員の方々、ほんとうに有難うございました。

1番員 田井中分隊 中川団員

人生で初となる全国大会という舞台の雰囲気は飲まれてしまい、今までに感じた事の無い緊張感に包まれました。応援に来て頂いた方々に励ましを頂きがんばれました。有難うございました。

2番員 田井中分隊 宮平団員

人生初の全国大会出場でした。大会当日の時間の経過と共に緊張が増し、自分達の順番が回って来た時には、ピークに達していました。大きなミスもなく積み重ねた訓練を全て出し切る事が出来ました。

3番員 老原分隊 山倉団員

消防団員として、全国消防操法大会に出場できた事を誇らしく思います。他分団との絆を深める事ができたとともに、一つのことをやり切る事など学べる事が沢山ありました。

4番員 老原分隊 森本団員

大会当日は天候の急変で大雨の中での操法となりましたが、皆で力を合わせてこれまでどおりの操法が出来ました。入賞は逃しましたが「全国大会出場」という貴重な経験ができ、心より感謝致します。

補助員 天王寺屋分隊 藤木団員

訓練では迅速・確実をモットーに操法技術を磨き上げました。大会当日は豪雨の中での操法となり、どんな状況であっても迅速・確実な行動ができるかを試されている気がしました。有意義な一年となりました。

◆(山本分団 塚尾 誠一)

編集後記

前年度の委員長を見てきて、自分は今年度しっかりできるのか？と心配しましたが、各分団の広報委員の方々の多くの助けがあつて第42号・第43号を無事刊行する事が出来ました。

力不足ではありましたが、1年間支えていただいた皆様、本当にありがとうございました。

広報部員名簿

委員長

山本分団

塚尾 誠一

副委員長

龍華分団

中東 正行

委員

久宝寺分団

久保 元伸

西郡分団

奥村 貴司

八尾分団

土谷 研太

龍華分団

安田 秀行

大正分団

今井 武隆

曙川分団

中村 道弘

南高安分団

佐々木 尊之

高安分団

西川 智一

山本分団

浅井 孝樹

志紀分団

大英 修一